



## 大野将平選手の魅力

校長 荻野 浩

今年の夏休みは、猛暑の前半と天候不順に見舞われた後半とに分けられ、その間発出され続けたのが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言でした。そのため、8/2(月)～4(水)予定の林間学校(5年生)も、延期せざるを得ない状況となってしまいました。急遽、実施直前の判断であったため、5年児童をはじめ保護者の皆様、関係の皆さんには、大変ご迷惑をおかけいたしました。林間学校は、小学校生活における大きな行事の一つであり、児童が大きく成長することのできる体験活動ですので、何とか実現できるよう計画を練り直し、実施に向け準備を進めたいと考えています。

また、不要不急の外出を控え、人流を抑える感染防止対策に従い、家での生活時間が多くなったご家庭もたくさんあったのではないのでしょうか。私自身も、庭の手入れや畑の雑草取りに取り組み、家での生活時間がいつも以上に増えた夏休みとなりました。

このような中、私たちの心を揺さぶったのは、1年の延期を経て開催された2020東京オリンピック・パラリンピックではないのでしょうか。連日、ニュースや新聞等で試合の状況・結果が報道され、厳しい環境の中、自分の限界に挑む各国選手の姿は、大きな刺激となりました。

試合相手のいることですので、勝負がついたり、記録によって順位がついたりします。目標どおりの結果や納得できる試合内容に満足する選手、負けた悔しさや実力が出し切れなかったふがいなさに肩を落とす選手等、それぞれの種目・多くの会場で繰り広げられた熱戦は、見ている者の心を揺さぶるものでした。

特に私の心に突き刺さったのは、男子柔道73kg級に出場した大野将平選手の姿でした。練習に取り組む姿勢や考え方、試合に望む姿、試合後の対応等、現代のスポーツ選手でありながら、心技体を極める武道家のように、強さと共に人としての魅力を感じました。決して偉ぶらず、自分自身と競い合い、死闘を繰り返した相手にも敬意を払う、そんな大野選手を見るたびに「カッコいい」と強く思いました。

試合直後のインタビューの中で、「我々アスリートの姿を見て、何か心が動く瞬間があれば本当に光栄に思います。」と語っていました。大きな不安のある中、常に自分と向き合ってきた厳しさから出た言葉であったと思います。あの瞬間、ただ単に、メダルを取ったからすごいとか、勝ってよかったという思いだけではなく、『自分も頑張らなければ』『自分にできること何か』などと、自分自身を振り返った人も、たくさんいたのではないかと感じています。

私にとって、この夏は、大野将平選手の人としての魅力にふれ、自分の在り方を見つめ直すことのできた夏休みとなりました。これからも大野選手のように、人としての力を高めていけるよう頑張っていきたいと思えます。皆さんにとっての「心が動いた瞬間」は？

### 【ご理解・ご協力ください】

- これまで吹上小学校では、学校生活における大切な力の一つとして、「元気で大きなあいさつ」の実践に向け取り組んでまいりました。しかしながら、現在の新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見ますと、小・中学生を含む低年齢層にも陽性者が急増しています。つきましては、現状を踏まえ、今後しばらくの間、『相手に聞こえる声であいさつ』に変更して取り組んで予定です。挨拶の大切さ、必要性については、学校でも引き続き指導してまいります。ご家庭・地域におかれましても、取組変更についてご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。